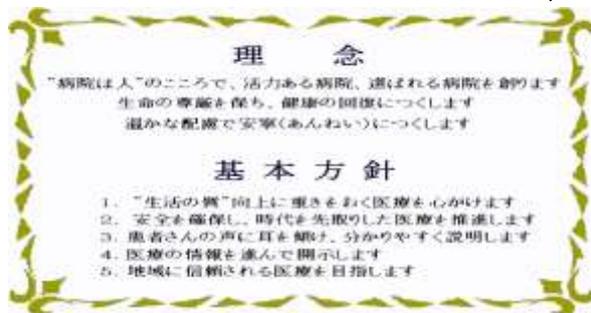




札幌医療センターつうしん

(2021-8号)

令和 3 年 8 月 1 日 発行  
KKR札幌医療センター  
〒062-0931  
札幌市豊平区平岸1条6丁目3-40  
電話(011)822-1811  
<http://www.kkr-smc.com>



## “キズ”の治し方

皮膚科医長 藤村 悠

“キズ”には、切り傷や擦り傷から火傷や床擦れまで様々な深さの傷があり、誰もが経験するものです。昔からキズは消毒して乾かして絆創膏やガーゼを貼り、カサブタを作ってそれが取れたら治る、と言われてきました。しかし、最近ではこれが間違いだと言われていることをご存知でしょうか？

近年、湿潤療法が勧められています。『キズを湿潤させて治す』という、昔とは正反対の考え方で。昔の考え方は以下のような理由で間違いだと言われています。

- 消毒には殺菌作用はあるが、同時に皮膚の細胞も殺してしまう。
- 乾燥した環境ではキズを治すために出てきた皮膚の細胞が死んでしまう。また、キズを治すために滲み出てきた成分が乾いてカサブタになってしまい、さらに、新しい皮膚の細胞が出てくるのを邪魔する。
- 絆創膏やガーゼはキズの水分を吸って乾燥させ、さらに、それを剥がす時にせっかく治ってきた皮膚がくっついて一緒に剥がれてしまう。

そこで、最近のキズの治し方についてご説明します。まず、キズができれば流水で洗います。これで表面についたバイ菌や汚れを洗い流します。痛くなければ石鹸も使います。

次に、湿潤療法を2つご紹介します。1つ目は塗り薬を使う方法です。白色ワセリンを塗り、保湿効果を保ったままガーゼなどで保護します。毎日、キズを洗ってこの方法で保護します。2つ目はハイドロコロイド材を使う方法で、ドラッグストアなどで購入できます。絆創膏のように貼ってキズを覆うことができ、キズから出てきた水分をその場にとどめることができます。防水機能もあり、数日貼り続けることができます。

以上、湿潤療法について簡単にご説明してきましたが、キズの汚れがひどくバイ菌が多い場合やすでにバイ菌が悪さをして赤く腫れてしまっている場合などには、湿潤環境が逆にキズを悪化させることもあります。異常を感じた場合はお気軽に皮膚科にご相談ください。

当院は≪敷地内全面禁煙≫となっております

# 病院情報システムをご紹介します。

情報管理課 岡部 泰毅

みなさんは、入院中の病棟や外来の診察室、お会計の時などに医師や看護師などの病院職員がコンピュータを使っている姿を目にしている事と思います。当院では電子カルテをはじめ多くのシステムを連携してひとつの病院情報システムとして利用し診療を行っております。

電子カルテシステムは従来紙に書いていたカルテを電子化したものです。紙カルテと違い院内のどのパソコンからもすぐに確認することができるため、「カルテがない！」と探す必要がありません。そのため、多職種との連携もスムーズになりチーム医療を促進します。

また、処方や検査の指示を出すオーダリングシステムでは、医師の指示を薬剤科や検査科に正確に素早く伝えることが可能です。更に、医師が指示を出す際に、お薬の用法・容量が正しく登録されているかどうかを、薬品情報や患者さんのアレルギー情報などからシステムが事前にチェックしており、より安全な医療の提供が可能となります。

放射線関連の画像もフィルムを使わず画像データとして管理しております。電子カルテと同様にどのパソコンからもリアルタイムに参照できるだけでなく、システム上で正確に大きさを測ることや、過去の画像との比較も簡単にできます。

採血をする際は、検査の受付をすると、システムが自動で検査に応じた採血管を用意してくれます。また、採血台で看護師が確認しているモニターには、必要な採血量や、「左腕で採血してほしい」など過去に患者さんがご希望された情報などが表示されるようになっており、より安全で負担の少ない採血ができるようになっています。

もちろん全てをシステムに頼っているわけではありません。システムの得意なところはシステムに任せ、人にしかできない患者さんとのコミュニケーションなどにより多くの時間をかけています。

これからも患者さんにより安心・安全で高度な医療を提供できるよう、システムを導入していきたいと考えております。

